



秩父病院だより

2011年春号 No.34

新築移転記念号



秩父病院鳥瞰写真



秩父病院

院長 花輪峰夫

はじめに、今回の大地震による犠牲者の皆様に心より哀悼の意を捧げ、被災者の方々にお見舞いを申し上げます。

新秩父病院は去る3月5日に開院披露会を行い、3月8日に開院しました。開院3日目の3月11日の大地震のため、一時は当院も大混乱に陥りましたが、全職員の懸命の対応で、3月末現在、計画停電は続いているものの、ほぼ平常に近い診療体制を取ることができています。

一方、被災地の医療機関等の状況、被災者の方たちの心労を思うと、胸が締め付けられる思いであります。一日でも早い復興と被災者の方々の心身の癒される日を願わずには居られません。この「秩父病院だより」が発行される頃には、原発による放射能汚染も解決され、少しでも良い方向に向かっていくことを信じて、被災者の方々と痛みを共有しつつ、私どもも医療機関として出来得る限りお役に立ちたいと考えています。

3月末日



上:初代病院(明治20年建築)
右:二代目病院(大正12年建築)



現在の三代目病院(昭和45年本館新築後、平成8年まで増改築)

開院披露会病院長挨拶

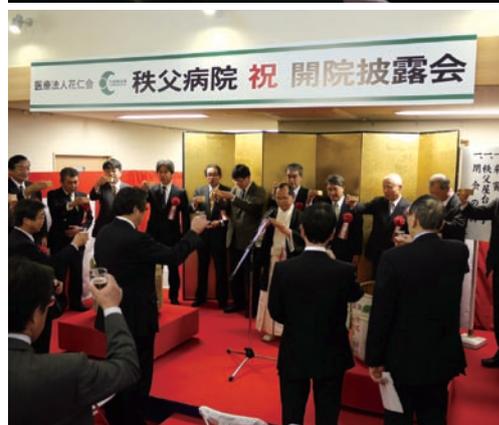
―移転に至る経緯―

3月5日に行われた開院披露会には300名を超す方々にご臨席を賜りました。この時、私は御礼の挨拶をさせていただきましたが、この要旨を活字として残し、反芻することにより自己の意志を再確認して、今後の糧としたいと考えました。移転に至った理由と私の心境を御理解いただければ幸いです。

前文略

私は秩父の医療に関わって、もうすぐ40年になります。この間、当地の医療も進歩してきましたが、残念ながら不十分な分野もあります。当地はやや隔絶された環境にあり、出来得る限り地域内で対応することが求められます。それには、総ての医療機関が連携し、1つの総合病院の機能を持つ事が重要と考えます。その上で、対処できない場合には、大学病院等への転院、救急においては、救急車やヘリコプターによる迅速な搬送を行うことが必要です。秩父に住むがゆえに、十分な医療を受けられないとあっては、医師として痛恨の極みであります。

さて、私が移転を考え始めたのは、数年前からであります。当地の医療環境、救急医療



披露会風景写真

の危機等を考えるに付け、当院が充実すれば、これらの問題の解消に少しでも役に立つのではと考えました。しかし、小さな民間病院が何をやって、たかが知れており、自身の年齢や体力、私個人の人生設計という意味でも、いままら、そんなことはやるべきではないとも思いました。正直、その頃、私は、医者続けるかどうか、悩んでいました。一方で、120年以上続いた病院を私が終息することは意地でもできないという思いもありました。私は救急医療の大変さ、病院を続けることの困難さは、いやと言うほど知っているつもりです。

悩みに悩んだ末、秩父病院の存続を願い、新築移転を考えるようになりました。そして、もう少し医者をやることに決めました。

平成19年9月、新しい病院を作りたいう私の漠然とした思いに、数人の友人が集

まってくれ、私の夢を親身になって聞いてくれました。「花輪の夢を叶える会」というのを作ってくれたのです。私が今回の決心をしたのは、彼らの存在が最大の理由であったと思っと思っています。病院を続けようと思った時、これを継続するには、環境や医療内容に魅力があり、医師が集まる病院を作らなければならないと肝に命じました。それには移転しないと判断したわけです。また、歯科を併設し、一般歯科の他、病院ならではの診療も行ってほしいと思えました。

急展開したのは、21年6月のことであります。秩父市が定住自立圏構想に指定され、病院の新築等に国の補助を受けられることを知ったのです。係わった総ての人たちが好意的であり、地権者の皆様、地元の方々にもご賛同いただき、計画は着実に進むかに見えました。

しかし、21年10月の政権交代による補助金の大幅カットは、私にとって衝撃でした。もともと、自力でやるつもりではいたのですが、一旦甘い夢をみて、それなりの計画で進み出していましたので、大きな誤算となりました。

友人達は、「辞めるなら今だ」と気遣ってくれました。しかし、関係者の方の話では、一旦、事業そのものが廃止の方針となったが、当院の計画が評価され、かろうじて残ったとのこと。これを聞き、私は落胆の一方で、今までにない喜びを感じました。初めて公が、私のやってきたことと、私のやらんとしている事を、社会性、公益性のあるものと認めたと感じたからです。この時より、今回の計画に対する確信と勇気が生まれたように思います。

年末には腹を決め、22年2月27日に地鎮祭を行いました。この時のことを、私の友人である人事院総裁の江利川さんが詠んでくれた句をご紹介します。

「決断の 人への祝詞の あたたかき」

— 秩父神社・北辰のふくろう —

さて、移転するについて悩んだことがあります。それは、秩父神社から離れてしまうということです。私はあの地で生まれ、神社の庭と森で遊んで育ちました。当院が124年続いてきたのは、秩父神社のお陰であろうと

思っています。診療の場でも、神に祈りたい場面には、何度も遭遇します。「医者が神頼みをしてどうする」と思われるでしょうが、私は、医療とは、そのくらい真剣かつ謙虚にやるべきものと思っています。このような思いから、私は御社（オヤシロ）を置くこととしました。また、秩父神社の「北辰のふくろう」にちなみ、ご神木であるイチヨウの木で作った、ふくろうを新病院の梁に据えることとしました。工事のほうは、極めて順調に運びました。当初、時間的余裕はまったくなく、設計施工は、大手建設会社の部長である私の無二の親友にすべてを託しました。このことは、今でも最善の方法であったと確信しています。設計建築スタッフは、私の思いを十二分に理解し、満足の行く病院を建ててくれました。



感謝

さて、本日はたくさんの方々にお出でいただいております。

埼玉県医師会長の金井先生始め埼玉医科大学、日本医科大学、県立循環器呼吸器病センター等より、多くの先生方にご臨席を賜りました。

さらに多くの医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方、首長様、国会、県会、市議会議員、官公庁、さらに地域や地元企業を代表する方々等、多くの方々にご臨席を賜りました。光栄であります。

新病院が建ったこの地は、秩父地域としては、広大な土地であります。今後、本日もご臨席いただいている方々を中心に多くの方々にお知恵を絞っていただき、この病院がきっかけになり、近い将来この地が「医療、介護、

福祉の里」となることを願っております。

私がことさら嬉しく思うのは、以前に当院に派遣医として来てくれていた先生や、当院で研修を受けた若い先生達が駆けつけてくれたことです。当院で研修した医師はすでに25名を超えますが、この内、多くの先生が来てくれました。ありがたいことです。

多くの同級生、その他大勢の遊び仲間が駆けつけてくれました。私の精神的支柱は彼らと家族でありました。高校の同級生の江利川さんが心労をいとわず、内閣府、厚生省事務次官、そして人事院総裁と3度も国の重要ポストを引き受けた姿は、私の大きな励みになりました。家内は当初、還暦を過ぎてまで、何もわざわざ大変な道を選ぶことはないと思つたことでしょうが、結局、私の我がままを聞いてくれました。感謝しています。

お社・鎮座・竣工



—最後に—

私は、今回の移転計画で多くの人たちの限らない善意を肌で感じました。多くの立場の違う人たちが、私の計画を理解し、支援してくれました。当院の歴史を振り返って見ますと、何度かの存続の危機があったようです。まず、父が助人の派遣医として秩父病院を救った時、父が2度戦争に召集された時、医師が父と私の2人つきりになった時等であります。その度に危機を脱し、秩父病院が現在あるのは、数えきれない多くの人達に支えられてきたからであります。

今、多くの方への感謝の気持ちと同時に、人のえにしの尊さをひしひしと感じています。

当初、私は、この計画は自分の医療人生の集大成と考え、大きな夢でもありました。これが現実となった今、これは次代へ繋げる第一歩であると思うようになりました。広い土地の一角に建った病院を見つめると、さらなる夢の広がりを感じます。

近い将来、少しでも多くの疾患が当地で完結されることを願っています。

私の思い入れをつぎ込んだため、外観は病院らしくない病院となりました。しかし、急性期病院としての内容は十分に備え、スタッフが集まる病院になったと自負しております。本日は誠にありがとうございました。

2011年3月5日 秩父病院院長 花輪峰夫



受付



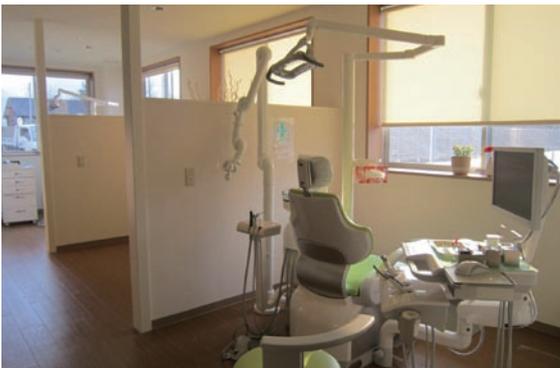
病棟



外来待合



オペ室



歯科



ドクターヘリ



病棟から見た風景



ヘリポート

秩父病院のコンセプト

1. ゆったりとした、環境に優しい地域の中核急性期病院
2. 管内医療機関との連携および官外高次医療機関との連携拠点病院
3. 開放病床を持ち、オープンシステムを実践する開放型病院

新病院の主な特徴と目指すもの

- 病院らしくない病院
- 木造平屋病棟
- 屋根裏換気と循環による空調システム
- オール電化システム
- ヘリポートの併設による高度医療機関との連携
- 輸血用血液備蓄病院
- 新病院と診療所（杵の杜クリニック）が情報を共有する電子カルテシステムの導入
- 歯科の新設／一般歯科の他、入院患者を中心とした口腔ケア・予防歯科医療
- 消化器外科手術、肝臓疾患の治療、緩和、癌末期医療、癌化学療法等の専門医療の充実
- 内視鏡的农技および手術、腹腔鏡下手術の充実



- 医師の教育／初期研修医の地域医療研修の充実／複数の学会の認定修練施設を取得することにより、後期研修医が専門医資格取得可能な病院とし、若い医師にとってより魅力ある病院を目指す
- 可能な限りの研究と学会参加、発表を目指す
- 看護学校の実習病院として機能、スペースの拡充
- 地域完結医療という将来への夢への第一歩と認識し、その礎となることを目指す
- 本院がこの地に移転開院することにより、周辺の広大な地域にリハビリ施設や福祉施設等が誘致され、同時に包括ケアシステムが構築され、将来はこの地に「医療、介護、福祉の里」が誕生することを期待します。これにより、秩父地域に住みやすい環境が整備され、合わせて、地域が活性化することを望むものです

病院概要

診療科目 外科・内科・消化器外科・消化器外科・肛門外科
循環器内科・麻酔科・放射線科・肝臓内科
腫瘍内科・整形外科・形成外科・歯科

指定・認定等 開放型病院
研修医制度臨床研修協力病院
(埼玉医科大学病院・埼玉医科大学国際医療センター・
日本医科大学付属病院・日本医科大学千葉北総病院)
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度修練施設
秩父看護専門学校実習施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設
財団法人 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定病院
人間ドック学会 健診・人間ドック機能評価認定施設

指定医療機関 救急告示病院
二次救急病院
輪番制救急病院
健康保険労災保険指定病院
結核予防指定病院
生活保護法指定病院

病床・病室 許可病床数：計52床(全床：一般病床)

スタッフ	常勤医師	7名	看護職員	43名
	常勤歯科医師	3名	看護補助	9名
	非常勤医師	24名	臨床工学技師	1名
	薬剤師	5名	管理栄養士	2名
	放射線技師	6名	事務職員	24名
	臨床検査技師	2名		



医療法人花仁会

HUMAN COMMUNICATION

秩父病院

〒369-1874 埼玉県秩父市和泉町20番

TEL. **0494-22-3022** (代表)

FAX.0494-24-9633

ホームページ：<http://www.chichibu-med.jp>

Eメール：info@chichibu-med.jp